

構造化評価システム



The Structured Scoring System of
Social and Occupational Functioning Assessment Scale

評価のためのトレーニング・シート

The Training Sheets for assessment

各領域の評価のためのケース

この章では各領域のみの評価を行う。評価は 41-50 のように 10 点幅で行う。練習題を行うことによって、sSOFAS の評価に際して必要となるルールの習得ができるようになる。

ケース・ビネット

この章では仮想の症例を評価する。sSOFAS で評価を行う 3 領域の情報が各症例には含まれており、各領域の評価に必要な情報を症例から読み取り、SOFAS の算出を行う。

各領域の評価のためのケース

1a 学生

ケース 1 風邪をひいて欠席

公立中学校に通っている 13 歳。風邪を引いたので 3 日学校を休んだ。今月の登校日は 22 日だった。

欠席率は $3 \div 22 = 13.6\%$ 。欠席には病欠も含む。

C: 71-80

ケース 2 五月雨型不登校 1

公立小学校に通っている 10 歳。不登校であるが、来たり来なかったりというのを繰り返している。今月の欠席は 5 日、登校日は 22 日だった。

欠席率は $5 \div 22 = 22.7\%$ 。

D: 61-70

ケース 3 五月雨型不登校 2

公立中学校に通っている 10 歳。不登校であるが、来たり来なかったりというのを繰り返している。今月の欠席は 10 日、登校日は 22 日だった。

欠席率は $10 \div 22 = 45.5\%$ 。欠席率が 40%を越えているため「領域 1b－学生以外」でも評価して、高いスコアを採用する。

E: 51-60

ケース 4 要領の良い大学生

大学生 3 年生。毎週 3 日ほどしか登校していない。しかし、必修単位であるゼミには必ず行き、登校をしなくてもテストを受けるだけで単位が得られる科目をできるだけ履修しているため登校日が少ない。

大学は単位制であり、進級・卒業に必要な単位のみを測定する。

A: 91-100

ケース 5 大学生だが他のことに熱中

大学生 3 年生。すでに 1 年留年している。今年は休学をした。必修単位であるゼミには行っていないが、研究室には毎週 1 回程度、通っている。休学したのは、2 年前からはじめた学習アプリの開発でベンチャー企業を興して、アプリ開発に邁進しているためである。

「領域 1b－その他」で評価する。

ケース6 インフルエンザで学級閉鎖

公立小学校に通っている8歳。今月はインフルエンザ学級閉鎖で合計4日が休みだった。本人は病気にはかかっていない。学級閉鎖がなければ今月の登校日は22日だった。

本人の都合以外での休み(学級閉鎖等)はカウントしない。日本では出席停止であり、欠席とは扱わない。しかし病気の種類によらず、本人がインフルエンザで休んだ場合は欠席とする。

A: 91-100

ケース7 暴力事件で停学処分

公立高校に通っている17歳。同級生を殴ったり、校内で飲酒をしていたがわかり、2週間(10日)の停学処分となった。今月の登校日は22日だった。

欠席として扱う。 $10 \div 22 = 45.5\%$ なので、欠席率「40~60%」に相当。日本では停学期間は出席停止であり欠席として扱わないが、sSOFASでは自責による欠席と捉える。

E: 51-60

1b 仕事

ケース1 一人暮らしの就労者

会社員の男性35歳。独身で一人暮らしである。月曜から金曜まで仕事があり8時間の就労時間に加えて、毎日2時間程度の残業をしている。今週は土曜日も仕事に行っており、8時間働いた。平日の家事は、食事ほとんど外食であり、一人暮らしのためほとんどしないが30分くらいは片づけや掃除をしている。休日は平日に溜まった洗濯を1時間程度かけて行っている。

月曜日から金曜日までの5日間、8時間と2時間程度の残業をしているため平日の就労時間は $5 \times (8+2) = 50$ 時間。土曜日の出勤8時間を加え58時間となる。家事は、毎日の30分の片づけや掃除 $7 \times 0.5 = 3.5$ 時間および休日の洗濯 $2 \times 1 = 2$ 時間が加えられ合計63.5時間となる。活動時間は週50時間を超えている。

A: 91-100

ケース2 パートをかけ持つ臨床心理士

25歳の臨床心理士。独身で一人暮らしである。週5日働いている。月曜と金曜は中学校にスクール・カウンセラーで7時間、火曜と木曜は5時間クリニックで、水曜日は企業のカウンセリングルームで6時間働いている。家事は1日1時間ほどしている。

月曜日から金曜日までの5日間の労働時間の合計は $7 + 5 + 6 + 5 + 7 = 30$ 時間である。家事は 1×7 で7時間である。活動時間は37時間になる。Cの週30~40時間に相当。

C: 71-80

ケース 3 主婦のパート

35 歳女性である。夫と 2 人の子どもの 4 人家族。下の子どもの小学校高学年になったことを機にスーパーでパートタイムを始めた。夫が就労しているため、収入を 103 万ぎりぎりに抑える働き方をしており、毎月 86,000 円程度の収入である。就労しているのは月曜から金曜で、時間は 6 時間、週に 30 時間となる。平日は家事と子育てに 3 時間、休日は 5 時間程度費やしている。

就労時間は週に 30 時間で、平日の家事子育てが $5 \times 3 = 15$ 時間、休日の家事子育てが $2 \times 5 = 10$ 時間、合計で 55 時間となる。A の週 50 時間以上に相当。 A: 91-100

ケース 4 大学受験予備校生

18 歳男性。国立大学を目指していたが、現役では合格できず、予備校に通いながら浪人生活をしている。予備校は月曜から金曜まで 5 日あり、週平均 3 コマ、4.5 時間ある。その他自習に 3 時間かけている。土曜は 7 時間程度自習をしている。日曜日は休むようにしている。

学習時間は平日 $7.5 \times 5 = 37.5$ 時間、土曜に 7 時間あるので、合計で 44.5 時間である。週 40~50 時間に相当。 B: 81-90

ケース 5 大学院生

24 歳女性。国立大学の大学院博士課程前期課程(修士)の 2 年生である。専攻分野は材料工学であり、実験器具が大学にしかないため、週 6 回は大学に来ており、実験の結果待ちのため週 2 日は大学で寝起きしている。週の研究時間は 60 時間である。家事は週 5 日で 1.5 時間行っている。

研究時間は 60 時間で、家事が週 7.5 時間なので、67.5 時間。週 50 時間以上に相当 A: 91-100

ケース 6 兼業学生

17 歳女性。夜間定時制高校に通っている。午前中はパートで働いており、週に 5 日 6 時間である。高校は 50 分授業が週 5 日 4 限ある。

労働時間は $5 \times 6 = 30$ 時間、学習時間は $5/6 \times 4 \times 5 = 16.7$ 時間であり、合計 46.7 時間となる。週 40~50 時間に相当。 B: 81-90

ケース 7 通信制高校に通う学生

18 歳男性。通信制高校に通い、サポート校にも通っている。通信制はスクーリングが月 2 回、5 時間程度である。サポート校には 4 日 4 時間程度である。

スクーリングは週あたり 2.5 時間。サポート校は 16 時間。合計 18.5 時間となる。週 15~30 時間に相当。 D: 61-70

ケース 8 通信制高校のスクーリングだけ行く学生

17 歳女性。通信制高校に通いスクーリングが月 3 回あり各 5 時間程度である。今は勉強が手につかず、週 10 時間程度しかやっていない。

スクーリングは週あたり 3.75 時間。週の勉強時間 10 時間を加えて 13.5 時間で、週 5～15 時間に相当。 E: 51-60

ケース 9 フリースクールに通う子ども

14 歳女性。中学校 1 年で不登校になり、その後全く学校には行かなくなった。半年前からフリースクール通うようになった。フリースクールに通いだしてからは元気よく通い始め、フリースクールに週 5 日 6 時間程度通っている。

$5 \times 6 = 30$ 時間通っている。週 30～40 時間に相当。 C: 71-80

ケース 10 大検を目指して家で勉強をしている青年

18 歳男性。高校 1 年の時に不登校になり、高校 2 年で出席日数が足りなくなり、退学した。その後、大検を目指して家で勉強をするようになった。最初はあまり進まなかったが、今は毎日 5 時間 5 日程度勉強している。

$5 \times 5 = 25$ 時間勉強している。週 15～30 時間に相当。 D: 61-70

ケース 11 リワーク・プログラム

正規雇用で 1 年前にうつ病になり、現在はリワーク・プログラムで復帰している。週に 4 日間 4 時間(週 16 時間の労働)をしている。作業は非常に簡単なものしか任されていない。

週 16 時間の労働。リワークは 70%で評価するので 11.2 時間と評価。 E: 51-60

ケース 12 統合失調症のデイケア

統合失調症のデイケアに通っている。参加しているのは週に 4 日 6 時間(週 24 時間)である。

週 24 時間の活動。デイケアは 30%で評価するため 7.2 時間として評価。週 5～15 時間に相当。 E: 51-60

ケース 13 就労継続支援 A 型での就労

10 年前、統合失調症と診断され、一時は病状が非常に悪かったが、現在は就労継続支援 A 型で段ボール箱の組み立て作業をして働いている。週に 5 日 6 時間働いている。

週 30 時間の活動。就労支援事業(A 型、B 型、移行、職業訓練)は 50%で評価するので 15 時間と評価。週 15～30 時間に相当。 D: 61-70

ケース 14 障害者枠で一般企業で働く男性

障害者手帳 B1 級を持つ自閉症の男性。大手アパレルで障害者枠での就労を行っている。週に 5 日 6 時間(週 30 時間)働いている。主に行っているのは、店舗の掃除と商品の袋詰めなどである。

週 30 時間の活動。障害者枠での就労は通常就労と同様に評価。週 30～40 時間に相当。

C: 71-80

ケース 15 職業訓練プログラム

ひきこもりであったが、1 年前に地域若者サポートステーションに来所して、現在は職業訓練プログラムに参加している。製造ライン技術科(電気設計コース)で週に 5 日 6 時間訓練を受けている。

就労訓練で週 30 時間活動。就労訓練は 70%で評価するので、21 時間で評価。週 15～30 時間に相当。

D: 61-70

2a 交流

ケース 1 同僚との交流 1

会社では同期など親しい友人が 3 人ほどいて会社ではほぼ毎日会い、休憩時間などにいろいろなことを話している。会社は週 5 日である。また時々、終業後などに飲みに行っている。

同期で親しい仲にある者は重要な他者。毎日会って話しているのは「週 4 回以上」に相当。

A: 91-100

ケース 2 同僚との交流 2

会社では同期など親しい友人が 3 人ほどいて会社ではほぼ毎日会い、休憩時間などにいろいろなことを話している。会社は週 5 日である。しかし、終業後に飲みに行くという仲ではなく、他に友人もいない。

職場の休憩時間という場に限定した会話であるため重要な他者には含まれない。その他の他者との会話が週 4 日以上と捉える。

A: 61-70

ケース 3 ラジコンヘリの趣味を持つ人

会社では特に親しい人はいない。趣味のラジコンヘリ好きの人が集まる会が週に 1 回程度であって、そこには友人がたくさんいる。平日は彼らと毎日 LINE をしている。

趣味の友人は重要な他者。毎日会って話している(会話には電話・チャットを含む)は「週 4 回以上」に相当。

A: 91-100

ケース4 ネットゲーム中毒

大学生だがほとんど大学には行っていない。毎日 10 時間以上ネットゲームをしていて、ゲームでは友人がいて、一緒にモンスターを退治しにいている。ゲームにはチャット機能があり、毎日話している。

趣味の友人は重要な他者。毎日会って話している(会話には電話・チャットを含む)は「週 4 回以上」に相当。 A: 91-100

- このケースは社会活動の項目で F や G であり SOFAS 自体は低い。

ケース5 親戚との付き合いが中心

医師でクリニックを開業していて、忙しいため友人や知人に会う機会は月 1 回程度である。しかし、甥や弟など親類と毎日曜日に飲み会をしている。彼らとは同居していない。

会話をしている同居家族ではない親類。週 1 回飲み会をしているので「週 1～4 回」に相当。 B: 81-90

ケース6 ひきこもりの青年

ひきこもりで家族以外の他者とは会話をしていない。会話といえばコンビニで物を買ったり、図書館で本を借りる際のものくらいである。会話の内容は店員さんと「540 円です。」「電子マネーで落としてください」「かしこまりました」といったものである。

付則に「買い物時の店員との定型的な受け答えは会話として評価しない」とあるため店員・図書館員との会話とは評価しない。 G: 31-40

ケース7 勤め先の社長と親密

町工場に勤めていて、社員は社長と社長の奥さんと本人だけである。週 6 日、残業も入れて 10 時間ほど働いている。勤続年数も 10 年を越えて社長夫人とは非常に仲が良い。毎日雑談をしており、一緒に晩ご飯を食べに行くこともよくあり、社長の家に呼ばれることもよくある。まとまった休みには両家族と一緒に旅行に行くこともある。会社以外で家族以外に親しい人は特にいない。

上司であるが、親密な間柄にあり、重要な他者に該当。「週 4 日以上」に相当。

A: 91-100

ケース8 医療スタッフとのみ会話

統合失調症で週 4 日 6 時間のデイケアに通っている。そこでは、医師、臨床心理士、社会福祉士などのスタッフとよく話している。家族以外で話をしているのはデイケアで話しているスタッフだけである。

医師、臨床心理士、社会福祉士などはサービス提供者なので重要な他者に含まない。その他の他者との会話が「週 4 日以上」に相当。 D: 61-70

2b 不和

ケース 1 ボーイフレンドと口論

19 歳女子大学生。ボーイフレンドと知人女性が隠れてセックスを行っていることがバレて、ボーイフレンドと口論となった。口論は会うたびに続いており、頻度は週 1 回ほど。別れ話が出ている。口論の中では暴言もたびたびある。

暴言は重度の不和。週 1～4 回。

E: 51-60

ケース 2 いじめ

14 歳女子。クラスではいじめのターゲットが決まっていて、2 か月前からターゲットとなる。いやがらせや暴言をクラスの女子の 20% くらいの人から毎日受けている。

いじめは重度の不和。加害・被害は同等に評価。頻度は「週 4 日以上」に相当。

F: 41-50

ケース 3 バレエの嫌がらせ

16 歳女子。バレエの専攻の高校に属している。他の者より抜きん出ているため、嫉妬をかい、トウシューズに画びょうを入れられることもある。嫌がらせの頻度は月 2 回程度。犯人はクラスメイトの誰かである。

いやがらせは軽度の不和。頻度は「月 1～週 1 回」に相当。

B: 81-90

ケース 4 上司から無視をされている

38 歳男性。上司から無視をされている。そのため、業務の重要な事項が伝わっていなかったり仕事にも影響が出ている。出勤日は週 5 日である。週 1 回程度無視されていることによって、被害が起きている。

無視は嫌がらせではあるが、頻回でありいじめと捉えられる。いじめは重度の不和。週 4 回以上。

E: 51-60

ケース 5 ストーカー被害

24 歳女性。顧客としてたまたま数回会った男性に一方的に好意を寄せられ、ストーキングされている。家の最寄り駅で待ち伏せしており、時折、家までついてきて非常に困っている。現在、警察に相談をしている。頻度は週に 1 回ほどである。

顧客は知人。ストーキングは重度の不和であり、頻度は「週 1～週 4 回」に相当。

E: 51-60

ケース 6 酔っ払いに絡まれて

42 歳男性。夜に繁華街を歩いていると酔っ払いに絡まれ、殴られた。頭を殴られたので、そのあと病院にいった検査をした。

知人ではない人からの不和は評価しない

ケース 7 友人に水筒で殴られて

17 歳女子高生。友人とケンカして、水筒で頭を殴られ、倒れた時に、腕に切り傷ができて病院に行って 3 針縫った。

出血・裂傷であるため重度の不和。頻度は「月 1 ～週 1 回」に相当。 D: 61-70

ケース 8 軽い打撲

17 歳女子高生。友人とケンカして、押し倒され、軽い打撲で済んだため病院にはいかなかった。

医療のケアが必要なものではないため軽度の不和。「月 1 ～週 1 回」に相当。 B: 81-90

ケース 9 DMDD の男児

10 歳男児。ADHD と DMDD の診断がある。物を壊したり、気に入らないことがあると人を叩く。物を使って殴ることはなく素手である。腕力がそれほど強くないため、大人も子供も怪我をしない程度である。頻度は 2 日に一度くらいである。

男児の状態は重度の不和である。頻度は「週 1 ～ 4 回」に相当。 E: 51-60

ケース 10 パワハラ

52 歳男性。部下をしかりつけることが多く、成績の悪い部下に対して「生きてる価値がない、死んで来い」など暴言を吐く。暴言の頻度は 2 日に 1 度くらいである。

暴言とパワハラは重度の不和。頻度は「週 1 ～ 4 回」に相当。 E: 51-60

ケース 11 妄想

50 歳女性。大勢に監視されており、電磁波や Wi-Fi で攻撃されていると述べる。隣に住む人に盗み聞きされていると思っており、毎日のように隣の部屋の呼び鈴を 1 時間以上鳴らし、「これ以上攻撃するようならわかっているな!」といった危害を加えることを連想させるような暴言を吐いている。ほぼ毎日行っているようである。

妄想は評価しない。評価女性の加害行為のみ。頻回の嫌がらせと暴言は重度の不和。頻度は「週 4 回以上」。 F: 41-50

3 家族

ケース1 一人暮らし

24 歳男性。大学を出て就職をして現在一人暮らしである。実家は遠方にあり、家族と会うのは年に 1 回あるかないかである。

一人暮らしは B と評価。

B: 81-90

ケース2 シェアハウス

大学入学を期に家をでて友人と家を借りて暮らしている。いわゆるシェアハウスである。外泊するときもあるが、週に 1 日あるかないかであり、週 5 日は一緒に暮らしている。

友人との同居であるため一人暮らしと評価

B: 81-90

ケース3 寮暮らし

大学が実家から遠いため、大学の寮に入った。部屋は個室だが、キッチンやトイレなどは共同である。寮生は 50 人程度である。そのうち 20 人程度は友人で仲が良く毎日会話がある。残りの人とはあまりしゃべらないか仲が良くない。ケンカをすることは稀だが、無視やちょっとした嫌がらせを毎日のように互いにしている。

寮暮らしだが寮生は同居家族ではないため、一人暮らしとみなす。

B: 81-90

- 人と毎日会話しているので、家族以外の交流は A 評価
- 軽度の不和が週 4 日以上あるので、不和は D 評価

ケース4 恋人と同棲

結婚を前提に付き合っている人がいる。結婚に向けて 3 か月前から同棲を始めた。それぞれの借りていた部屋は解約して、2 部屋あるマンションを借りている。軽い口論はあるが、仲は非常に良く、毎日会話をしていて結婚式をいつするかという話を最近よくしている。なお、対人関係に対立がない。

結婚はしていないが、恋人であるため、同居家族として扱う。

A: 91-100

ケース5 週末婚

結婚したが勤務地が離れているため、週末だけ会っている。子どもはいない。土曜日は夫の家に泊まり、日曜日は翌日の勤務があるので、夕方くらいに別れて、各自の家に帰る。いわゆる週末婚と呼ばれるものである。めだった不和はない。

同居の定義は 1 日以上であるため、同居家族と評価。

A: 91-100

ケース 6 両親の仲が悪い

父親、母親、子どもの3人家族である。父親と母親は非常に仲が悪く、必要最低限のことしか話をしない。親密性のある会話が両親にはない。両親とも子どもとの関係は良好である。

両親には軽度の不和が毎日ある。週4回以上に該当。

B: 61-70

ケース 7 家族のケンカ

父親、母親、子どもが2人の4人家族である。基本的に仲がいいが、テレビのチャンネル争いやおもちゃのとりあいなど、口論は絶えない。口論といっても、翌日まで響くものではなく、数時間後には仲直りをしている。

数日で仲直りする口論・ケンカなど一時的な関係性の悪化は評価しない。 A: 91-100

ケース 8 体罰

子どもがなかなかいうことをきかないので、親は頭を叩いていうことをきかしている。頻度は週に1度くらいである。親は体罰は教育の一環だと主張している。

暴力の正当性は評価しないので、体罰は暴力と評価する。医療的ケアは必要がない暴力なので重度の不和。頻度は週1～4回。 E: 51-60

ケース 9 不登校で口論

両親と中学生の子どもの3人家族である。子どもは半年前から不登校になり、両親はなんとか学校に行かそうとするが、子どもは行きたくないといい、取っ組み合いのけんかになることがたびたびある。口論は3に2日ほど、取っ組み合いのけんかは月に1回程度である。

口論は家族関係では評価しない。取っ組み合いのけんかは重度の不和。頻度は月1回。

D: 61-70

ケース 10 性的虐待

12歳の小学生。4歳の時に実の父親と母親は離婚し、親権を母親が手に入れ、母親によって育てられている。1年ほど前から母親の彼氏が住んでいるアパートに転がり込んできて、同棲が始まった。半年前から週1回程度の母親の彼氏から性的虐待を受けている。

性的虐待は他害行為。

G: 31-40

ケース 11 ネグレクト

2歳児。母親は子どもに愛情を感じないと言い、育児を放棄。ごはんを満足に与えていない。児童相談所が虐待ではないかとたびたび訪れている。

ネグレクトは虐待で他害行為にあたる。

G: 31-40

ケース 12 食べ物で言い争い

16 歳女性。高校 1 年生で父親、母親、2 つ上の兄と同居している。拒食症である。食物のことにに関して、両親と言い争いを毎日行っている。

両親との対立関係は継続的であり、軽度の不和が週 4 回以上。

D: 61-70

3 重症例サプリメント

4A 栄養の摂取

ケース 1 監視の必要な拒食症

18 歳女性。摂食障害の制限型(拒食症)である。BMI は 14.5。入院をして BMI を 18 にすることを目的にして、カロリーを調整した病院食を出されているが、医療スタッフに隠れて、食べ物を捨てていたことがバレて、現在は食べ物を受け取ってから、食べ終わるまでスタッフに監視されている。

BMI は 14~16 に相当。監督・監視が栄養摂取に際して必要。

I: 11-20

ケース 2 嘔吐を伴う摂食障害

30 歳女性。摂食障害で食べ物吐く。BMI は 15.3。食べる量は人並みであるが、各食事で 3 回ほど吐いているため、非常に痩せている。

BMI は 14~16 に相当。監督・監視なしに栄養摂取が可能。

H: 21-30

ケース 3 嚥下障害で胃ろう手術をした男性

82 歳男性。摂食嚥下障害のため自力で食べることが難しくなったため、胃ろう手術を行った。筋肉量も減りやせ細っている。BMI は 15.8。

BMI は 12~16 に相当。「常に自力での栄養の摂取はできず、何らかの医療的措置によって栄養を補充されている」に相当。

J: 1-10

4B 清潔性

ケース 1 風呂に入らない統合失調症の男性

36 歳男性。統合失調症と診断されており、抗精神病薬を飲みながら自宅で治療生活をしている。平均して週に 1 回しか風呂に入らず、体から悪臭がしている。

「身体を洗ったのが週に平均して 1 回以上 2 回未満」に相当。

H: 21-30

ケース 2 認知症で糞便の処理ができない

75 歳女性。息子夫婦と同居している。2 年前からアルツハイマー型認知症と診断され、症状は徐々に進行している。最近、自分で糞尿の処理ができず、3 回に 1 回ほどは、自室や廊下で用を足して、家族を困らせている。

「自力では排泄物の処理ができないときがある」に相当。

I: 11-20

4C 行動制限

ケース 1 統合失調症で体幹を拘束

28 歳男性。統合失調症で入院している。入院当初から暴力がひどくスタッフに殴りかかるなど問題を起こしていた。隔離室に入れてみたものの、壁を殴ったり、蹴ったりするので、自分が怪我をする状態であるため、今は体幹の拘束をしている。上肢の拘束はない。

「両上肢は拘束されていないが、体幹は拘束されている」に相当。	I: 11-20
--------------------------------	----------

ケース 2 自閉症の暴力

16 歳男性。現在は両親と同居している。小学校の頃から暴力が絶えず、家族を殴るなどの暴力行為が収まらない。薬を飲むことも拒否している。家族は暴力に困っているので、食事にジプレキササイデスを混ぜているが、それでも暴力性は残っている。壁を殴ったり、自分を殴ったりはしない。

自傷の可能性はないので、「隔離」で対応ができるケース。隔離はされていないが必要 性があると判断できる。	H: 21-30
--	----------